

草の刈られた河川敷を目にした。暑くてしんどかったはずが、気がつくとき笑顔になっていた。

私は陸上部だ。一番の目標である「速くなる」を達成するため日々練習を重ねている。部活のない日、私の練習場所は河川敷だ。

その日も変わらずいつものコースを走っていた。夏の日差しとそれに伴う苦しさに耐えながら、ただひたすらに前へ足を運ぶ。そんな中、目の前に現れたいつもと違った道。草が生い茂っていたはずの道はがらりと姿を変え、普段より涼しい風、開けた見通しが私を出迎える。心地いい。一番にそう思った。このような景色、状態で走れているということに嬉しさを感じ、思わず笑みがこぼれた。道の先へ目をやると草を刈っている業者の方々がいた。それを見て、直接言うことはできず、心の中ではあったが草刈りをしてくれていることに私は全力で、ありがとうを伝えた。

速くなるという目標を達成する上で、一番怖いものである、怪我。それを防ぐため、私は定期的に接骨院へ通っている。治療代は1回500円だ。ある月、試合が重なり疲労もたまっていたためいつもより多く接骨院へ通った。治療が終わり、治療代を払おうと財布を取り出すと、先生が言った。「お金は払わなくていいよ」と。私の頭は「？」でいっぱいになった。なんで払わなくていいの？先生のサービス？？そんなことを考えていると先生は「月3回以上は国が代わりに払ってくれるから払わなくていいんだよ」と教えてくれた。あっ、そういうことか。「？」が消えた私の頭の中は気がつくとき、ありがとうがあった。

これらの経験の上、学校で税について話を聞き、今まで考えたことのなかった疑問に出会った。これまでに感じた「ありがとう」はどこから来るのか。元をたどると、どちらも税金へと行き着いた。よくよく考えてみると、ごく当たり前のことだった。けれど意識しなければずっと気づけなかったかもしれないことだ。ただ目の前の事柄に対してのみ、ありがとうと感じ、伝えてきた。けれど、ほんとうにありがとうを伝えるべきなのは私たちを含めた納税者の方々なのだと気がついた。

税金が使われている箇所は身近すぎて意識していないことが多い。実際、これまでの私のように何も考えていないという人も多くいるだろう。また税金を払うことに対して抵抗を感じているという人もいる。そんな税金について考えるようになった今、私の日常はありがとうで溢れている。整備された道路を走れること、充実した医療・教育を受けられること。それらは全て、納税者の方々によって支えられている。税金を惜しまずきちんと納めるというみんなの誠実さがささやかな幸せを私たちにもたらしてくれる。税金という繋がりが笑顔の輪を広げる。私には、ありがとうで溢れる社会は前よりもずっと明るく感じられる。